

令和5年6月19日

株式会社アズ 代表取締役 宗像佳代

即興劇で考える「おやこのつながり」

講師所感

企画内容について

2023年6月10日（日）午前10時から正午まで演劇鑑賞、午後1時30分から午後4時30分まで、体験ワークショップを実施しました。午前中は、二十名ほどの観客をむかえて、劇団プレイバックからコンダクター宗像佳代、アクター小森亜紀、劇団365からアクター2名、ミュージシャン1名の構成で即興劇プレイバックシアターを上演しました。午後は、一般参加者が極めて少ない状況から、急遽、内容を職員研修として、参加者の皆さんにプレイバックシアターを体験してもらいました。

実施内容と効果

午前中、公演の部では、マルタス多目的ホール2の会場を観客席と舞台に分ける劇場形式のレイアウトとしました。音楽による開演合図により、パフォーマーが入場、それぞれの名前と「おやこのつながり」の体験を短いコメントにして、自己紹介としました。名前を伝えること、体験ストーリーを語ることによって、一般的な演劇の舞台に立つ俳優との差異を観客にプレゼンしました。つまり、舞台上でのパフォーマーでありながら、同時に1人の個人として、自らのストーリーを持つ存在であること、そういう手法であることを観客に理解してもらう場としました。プレイバックシアターについての簡単なガイダンスのあと、観客から体験談を募り、打ち合わせなしに再現するプレイバックシアターを上演しました。短い手法「動く彫刻」では、4人の観客から「今朝のひとこま」を観客席から発言してもらい、それをパフォーマーが再現しました。それに続く「ストーリー」では、自身の体験を5人の観客へコンダクターがインタビューし、アクターとミュージシャンが即興劇として再現しました。1本目は、「祖母の立場から、子育て困難な時代を経て大きく成長した孫の物語」、2本目は、「母親の立場から、ペースがゆっくりの子どもの気持ちに寄り添うことが難しかった物語」、3本目は、「孫の立場から、幼いころの思い出、温かい祖母とのやりとりの物語」、4本目は、「息子の立場から、60年を経てやっとつながれた生みの母との物語」そして、最後の5本目には、「患者の立場から、入院時にヒューマンな関わりをしてくれた看護師さんと心が繋がった物語」となりました。

午後は、一般参加者の方と準備室職員4名の方を対象に、プレイバックシアター体験ワークショップを実施しました。それぞれの方に、どういう内容を期待するか、何を得たいかをヒアリングし、「テラー体験」「コンダクター体験」「アクター体験」「ミュージシャン体験」を盛り込んだ内容としました。結果的には、職員4名の方、全員がストーリーを語ることになり、プ

令和5年6月10日 プレイバックシアター・ワークショップ

プレイバックシアター体験の原点ともいえる貴重なテラー体験が叶いました。職員研修に変更というイレギュラー対応をした結果、要となる職員の皆様にプレイバックシアターの効果と可能性を深くご理解いただけたことがビジョン達成の近道になったかと考えます。

今後に向けて

プレイバックシアターの手法を紹介し、より深い理解を得るという目的は達成されました。ただ、より広く、ひとりでも多くの市民、子育て困難の渦中にある市民を巻き込むという点では、集客にかなりの課題がみられ、今後の改善策に期待いたします。私どもは各種自治体、民間の組織とのコラボで子育て支援領域での実践、経験を積んでおります。ビジョン達成に向けて事例提供、集客ポイント、浸透戦略、継続性アイデアなど、ご提供できれば幸いです。

以上、簡単ではありますが、講師所感としてご報告いたします。今後どうぞよろしくお願いいたします。



令和5年6月10日 プレイバックシアター・ワークショップ

